

c) 機動的な観測に利用する観測機材の整備

2021 年実施予定の有珠山機動観測や 2022 実施予定の伊豆大島機動観測で利用する広帯域計を購入する。有珠山では、これまでに購入した機材と令和 3 年度に購入する機材とを併せて利用する。

機動的な観測や電磁気構造探査で利用する観測機材は、次年度以降も事業の予定を考慮して、本事業の業務の実施に支障のないように計画的に整備する。

d) 課題 A で取り組むデータ一元化への協力

本課題で得られた観測データを課題 A で進めるデータ一元化へ円滑に進めるため、課題 A で設置する具体的な方策を検討するワーキング・グループに参加し、課題 A の活動に協力する。その際、既存観測点の観測データについても議論が進むように協力する。

3. 会議録

(1) 課題 B 「新たな火山観測技術の開発」サブテーマ代表者会議

日時 令和 3 年 1 月 4 日 (月) 13 時～14 時

場所 オンライン (ZOOM 会議)

出席者 田中, 小澤, 實渕, 森, 大湊, 森田

1. 報告事項・審議事項

○予算配分

火山 PJ 令和 3 年度予算： 総額 640 百万円

【配分希望額報告依頼】 (〆切：1 月 15 日)

来年度の配分額についても、前年同様にサブ課題ごとの希望額を文科省に伝えることとした。

(各サブテーマの予算配分について、昨年度までの実績について表示し、情報共有を行い、これに準じることとした。)

○フォローアップ報告会の開催の確認

日時：1 月 19 日 10:55～12:05 プレゼン・質疑応答 50 分

以下の点を確認した。

角野さんが出席できず、代わりに森さんが出席する。

サブテーマ毎にスライドを用意し、プレゼンする。1 サブテーマにつき発表 10 分を目安。

PPT ファイルの形式は、12 月 15 日の運営協議会用に提出したものと同一とし、課題 B 内で形式を統一する。

2, 意見交換

○課題連携についての意見交換

評価委員から、課題内連携、課題間連携の不足が強く示唆されている。

来年度は、各サブテーマで共通に実施しているフィールドについて、それぞれの成果を持ち寄り、今後の研究の展開や噴火切迫性評価高度化の方策を議論するのはどうかとの提案が出された。可能であれば、対象のフィールドで開催。コロナの影響が続いている場合は、リモート会議形式で開催を検討する。

候補の火山として、草津白根火山、霧島山硫黄山が挙げられた。

具体的なことは今後相談して決める。

○今後の予定

運営協議会で予定とされ発表されたスケジュールは以下の通り。

1月19日	フォローアップ評価会
2月中旬	フォーラム
2～3月	研究集会
4～6月	運営委員会
4～6月	総合協議会

○その他

補助事業：機動観測実証事業（主体：防災科技研）について情報交換を行った。

以上